

見つめる目 しなやかな心 医療を支える 看護の手	看護部だより	2013 年 08 月号 第 268 号	特定医療法人衆済会 増子記念病院 看護部 部長 上村 志磨子 (認定看護管理者)
--------------------------------	---------------	----------------------------	--

皆さん、ご存知でしたか？

腎代替療法には3つの選択肢があります！

4 階病棟 主任 田中珠美

今年も、暑い夏がやってきました。皆さん体調管理は、万全ですか？この暑さで、熱中症で救急搬送された方、お亡くなりになられた方がいらっしゃいます。毎年、少しずつ気温が上がり今や体温より高い気温になる日もあります。気温が35℃を超えると、グラウンドでの運動も禁止されてしまう事もあるのだとか・・・。こまめな水分補給、適度な塩分補給を忘れず熱中症対策を行い元気に暑い夏を乗り切りましょう。

1 はじめに

皆さんは、ご存知でしょうか？当院では、腎代替療法の三つが選択できることを。患者数が最も多い①血液透析。患者数は大変少ないですが②腹膜透析。当院内でも1例行われた③腎移植。

今回は、②の腹膜透析について、皆さんにも知って頂きたいと思い簡単に書かせて頂きたいと思います。

2 CAPD（連続携帯行式腹膜透析）とは？

慢性腎不全に行われる透析療法の1つで腹膜を透析膜として利用する透析です。

腹腔内にカテーテルを埋め込み、これを通して滅菌された透析液（PD液）を腹腔内に注入し貯留します。貯留している間に腹膜を介して血液中の尿毒素や余分な水分をPD液に移動させます。これを排液させることで、尿毒素と余分な水分を体外へ排出します。1日3～5回、4～8時間毎にバック交換を行い、24時間連続的に透析をする治療です。貯留中は、自由に活動する事が出来ます。

3 CAPDの働きは？

CAPDは、腎臓の働きのうち次の3つを代行します。

- ①身体の水分会を調整する
- ②尿毒素を取り除く
- ③血液を弱アルカリ性に保つ

※CAPDでは、造血ホルモンの分泌、ビタミンDの活性化などは代行できません。

4 腹膜とは？

CAPDは、腹膜を利用し行いますが、では腹膜とは・・・？皆さんもちろんご存知だとは思いますが、おさらいのつもりで。

- ①肝臓、胃、大腸、小腸など内臓の表面を覆っている膜です。
- ②全体を広げると、総面積は約1.7～2㎡あり細かい血管が網目のように無数に走っています。
- ③内臓の保護と固定の役割をします。
- ④腹腔内には50～100mlの液があり潤滑油の役割をしています。

⑤腹膜で囲まれたところが腹腔で PD 液が入るところです。

5 カテーテルとは？

直径 5 mm 程度の柔らかいシリコンで出来ています。皮下組織内での固定と細菌侵入予防のためカフといわれるフェルト状のものが 2ヶ所ついています。内部カフから先端までの間には、液の出入りがしやすいように、たくさんの穴が開いています。

6 カテーテル挿入部位とは？

座位、立位、臥位どの体位からでも排液がスムーズにできるように先端はダグラス窩へ挿入されます。カテーテルは腹膜に固定されます。内部カフは臍下部、外部カフは出口部感染予防のためカテーテル出口部より 2～3 cm 奥の位置にあります。

7 CAPD の利点・欠点は？

<利点>

- ①透析場所は、自宅や職場などバック交換を行うことのできる条件を満たした場所であれば可能です。
- ②通院は、特別な治療がなければ 1～2 回/月程度で可能です。
- ③バック交換を行っている時間以外は、連続的に透析を行っているため身体への負担が軽減されます。
- ④自分の生活リズムに合わせたバック交換がある程度可能です。
- ⑤バック交換を行うための物品を持参すれば旅行も可能です。長期間の旅行であれば宿泊先の旅館やホテルへ PD 液を配送しておくとし軽に現地へ赴くことができます。

⑥食事制限が血液透析と比較すると割と緩やかです。

⑦自動腹膜灌流装置 (APD システム) を利用すれば、セットしたプログラムに従い自動的に PD 液を交換する事ができます。夜間就寝中に交換する事ができるので日中の交換回数が減ることがあり社会復帰が容易です。

⑧定期受診時以外、通院透析の必要がないため家族の協力が得られれば高齢の方や障害のある方も可能です。

<欠点>

- ①透析を行うのは自分、若しくは家族であるため自己管理が大切になります。
- ②カテーテルを人工的に腹腔内へ挿入するため腹膜炎のリスクがあります。
- ③カテーテルを挿入することにより出口部及びトンネル感染のリスクがあります。
- ④被嚢性腹膜硬化症のリスクがあります。
- ⑤カテーテルが体外に出ているためボディイメージの変化があります。
- ⑥自分若しくは家族で透析を行うことになるため手技の獲得が必要になります。
- ⑦透析に必要なとなる機器の操作を覚える必要があります。
- ⑧カテーテルを留置するための手術が必要です。
- ⑨腹膜透析ができる期間は、腹膜の機能をみながら当院では最長 5 年ほどです。

8 CAPD の課題は？

上記の利点にも記載しましたが、透析を行うのが自分自身で可能であるため、社会復帰が容易であることから、腹膜透析を選択して導入されるのは、自己管理がスムーズにできる年代の方です。

しかし、現代は高齢者社会です。私達の増子記念病院がある中村区も例外ではなく高齢の方が多く居住されています。

平成 23 年 10 月時点で、中村区の総人口 135,960 人中 65 歳以上の人口は 33,250 人で高齢化率は 25.0%と南区に次ぐ高い率になっています。そのため透析導入になる方も高齢の方が増加しています。

自宅でゆっくりと透析を行うことができる腹膜透析は身体への負担が軽いため高齢者の方にも向いている療法だと思います。しかし独居の方が多く医療機器の操作、バック交換手技の習得、自己管理が問題となり腹膜透析の導入ができないのが現状です。訪問看護ステーションなど地域に密着した施設との連携を強化し高齢者でも腹膜透析を選択できるように環境を整えることが今後の課題だと考えます。

9 終わりに

皆さん少しは腹膜透析に興味を持って頂けましたか？高齢者に優しい腹膜透析、社会復帰の容易な腹膜透析。患者さんに選択してもらうためには、情報を正しく提供することができる私たち医療従事者が興味を持ち知識を深める事が必要だと思います。一緒に腹膜透析の知識を深め患者さんに合った療法が選択できるよう役立てていきましょう。

以上

学生コーナー

患者の心に寄り添う

外来学生 下川美紀

私がこの増子記念病院に入社して、早いも

ので 4 年の月日経ちました。最初は右も左も分からず、出来ないことだらけでしたが、周囲の方々の支えもあり、少しずつですが、出来ることが増えていきました。

5 年目となり、診察室介助をさせて頂き、以前より患者さんと医師とのやりとりを聞く機会が増えました。診察室では疾患や治療に対して患者さんとお話するため、患者さんの不安、恐怖を感じることも多々あります。

ある日 70 代後半の女性の方が定期的な診察にみえました。精査の結果、腫瘍のようなものがあり摘出する手術を行うこととなりました。その患者さんはそのような手術を何度も繰り返し行っており、もう嫌だと泣きだしてしまいました。嫌な思いをするくらいならこのまま死んだ方がましだと。医師が優しく、「このまま状態が悪化するともっと苦しまなくてはならないであろう」ことを説明しましたが、患者さんは主人がつい先日亡くなってしまった、もう長生きする理由が無いなどおっしゃっていました。

医師はご夫婦お二人とも知ってらっしゃったため、「本当に仲の良いご夫婦でしたよね、ご主人はいつも奥さんのことを心配されていてとても優しい方でした」などと旦那様の話をされていました。すると患者さんは、「一人は寂しくてたまらない」「いつも主人を思い出す」「早く主人の所へ行きたい」などと涙ながらに語られていました。

医師はその話を聞き、「本当にいつも一緒にいらっしゃったから寂しいですよ、でもご主人は本当に奥さんのこと大事にされていたからそんなことおっしゃったらご主人から怒られちゃいますよ」と優しくおっしゃっていました。その際看護師も患者さんの背中をさすり、優しい言葉をかけていました。

平成25年度看護部行動理念 出し合おう! 新たな時代に 新たな手法!

すると、患者さんは「そうね、こんなこと言っていたら主人から怒られちゃうわね」と笑顔でおっしゃり、治療を受けることを決意されました。

この一連の流れをみて、このように患者さんとの心の触れ合いができ、患者さんの心に寄り添えるのは、地域密着型の病院だからこそだと思います。この患者さんは旦那様が亡くなってからこの時まで生きることへの希望が見いだせなかったのではないかと思います。しかし誰かに本音をぶつけ聞いてもらうことで少し前向きな気持ちになれたのではないのでしょうか。

今後自分自身そのような関わりが出来る看護師を目指していきたいと思います。

以上

.....

<看護師への道>

この道を選んで良かった!

外来学生 荻野晶子

私が看護師を目指し、名古屋へ出てきて、2年半が経ちました。学校と仕事に追われ、何も考えずに時間だけが過ぎていく、そんな時もあります。しかし、そんな時私が考えるのは私が看護師を目指すこととなった原点です。

私が看護師になることを最初に意識したのは、幼稚園の時に入院した時です。ずっと昔のことですが、あの時体験したことは今でも鮮明に覚えています。

入院したての頃は、緊張して一言も喋れなかった私も、時間が経つにつれて病院が居心地のよい場所になり、走り回って看護師さんに怒られるほどになりました。あの時の居心地のよさは、看護師さんたちの笑顔、そして安心感から作り上げられたものだと思います。

その看護師さんの笑顔、安心感が私が看護師を目指そうと思った原点です。そして何より、看護師である母の存在が大きかったと思います。高校3年生の進路決定のとき、たくさん悩みましたが、やはり、母の背中をみて育った私には、看護師という道が心に一番大きくありました。また、県外に出ることなど許してはもらえないと思っていた厳しい父が背中を押してくれたことが、私の最終決断となりました。

学校生活と病院での仕事を両立することは思っていた以上に大変なもので、辛いこともたくさんありました。しかし、そんな時に私の支えとなったのは、周りの人達、遠く離れた父と母、そして私の看護師を目指すこととなった原点である、あの笑顔でした。

看護師は人の命を預かるという大きな責任があります。しかし責任だけでなく、やりがいがある看護師という仕事にはたくさん詰まっています。まだ学生である私にも病院でのお仕事、学校生活を通してとてもやりがいを感じています。

今はこの道を選んでよかったなどと心から思っています。自分なりの看護観も深まり、目標とする看護師像もだんだんと見えてきました。

目指す看護師像に向けて、今、学生のうちは多くの知識を吸収し、突っ走っていきたいです。ただ、たまには後ろも振り返りながら、これから先の道を作り上げていきたいです。

以上

<臨地実習を通じて学んだこと>

患者と「共感」すること！

3 階病棟 学生 宮島 由紀

これまで看護するというと、「何か援助しなければ」という思いが強かった私ですが、実習を重ね様々な患者と出会い関わる中で、単純に「援助」だけが看護ではなく、患者と「共感」するということの大切さを学びました。

以前実習で受持った患者は、慢性疾患を患い、患者自身にとって自分が思い描く状態にならないことに対する苛立ちや、現状を受け入れられない日々などにより心の傷は深まっている状態にありました。

患者からは、「こんな痛い思いをして、いつ治るかも分からない。何のために手術したんだろうね」という言葉が聞かれることもありました。私はただ患者の話を聴き、相づちを打つことしか出来ず、何と声をかけたらよいかも分からなくなり、患者に何が出来るのか、どのように関わっていけば良いのか悩む日が続きました。

そんな時、指導者から「患者の話を傾聴し、共感的態度を取ることも大切なケアの 1 つです」と助言を頂き、この言葉をきっかけに「援助する」ことにとらわれていた私の気持ちが変化しました。

翌日からは、積極的にベッドサイドに行くようにし、患者の話を傾聴し、共感的態度を心掛けました。患者は「学生さんに愚痴ばかり言ってごめんね」と言いながら、療養生活の辛さ、手術に対する不安や不満などを話していただきました。

患者の思いを知ってからは、検査前やリハビリ前後などは手を握ったり、肩を揉んだり、タッチングをしたりして、共に過ごす時間を増やしました。受持ち時は、暗い表情で目も

合わせることはなかった患者でしたが、日が経つと共に笑顔が多くみられるようになり、心を開いてくれていると感じることが出来ました。

援助するという事にとらわれがちだった私にとって、患者との出会いは看護の視野を広くするきっかけになりました。これから先も患者の悩みに直面するかもしれません。その時には身体面のケアと同時に心のケアも行っていくことが出来る看護師になりたいと思います。

以上

<7 月号の「たより」の感想>

応援します！

「新卒看護研修コーナー」

新卒看護研修お疲れ様でした。研修部署が外来のときは、すべてが見学のみとなり外来対応等の体験ができなかったと思われま

しかし、透析室での研修は受け持ち患者を持ち、実際にシャント穿刺も経験でき、透析中のトラブルの対応法もよく学べていると思います。病棟でも自己判断ではなく先輩方に相談し、様々なことに対処していき、患者さんとの信頼関係を築けるように頑張ってください。

新卒看護研修後約 1 年が経ち、頑張っている姿を紙面上で知ることができ、外来としてもとても嬉しいです。これからも、いろいろなことを経験し、学んだことを次の後輩に指導してください。

外来 早瀬 関山 蛭牟田

以上

部署報告

<訪問看護ステーション>

名古屋市介護サービス事業者自己 評価・ユーザー評価事業に参加して

1 はじめに

介護保険法は、平成18年の改正によって、「介護サービス情報の公表制度」が設けられ、各都道府県は、事業所情報を調査・確認後、インターネットで公表している。この情報は、ユーザーとその家族が介護サービス事業所を選ぶ時の、貴重な情報源の一つとなる。介護サービス事業所は、任意で第三者による評価を受けている。ユーザー満足度を知り、ユーザーに選ばれる事業所を目指して、サービスの質の向上に努める事ができる。

当院の訪問看護ステーションでは、平成14年より毎年「名古屋市介護サービス事業者連絡研究会」主宰のユーザー満足度評価事業（以下「名古屋市介護サービス事業者自己評価・ユーザー評価」とする）に参加し、ユーザー満足度の一つの指標としている。この事業のあらましと、当院の訪問看護ステーションの評価結果をもとに振り返った内容を報告する。

2 ユーザー満足度調査「名古屋市介護サービス事業者自己評価・ユーザー評価」のあらまし

「名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（略称「名介研」）」とは、市内介護サービス事業者の自主研究組織である。ユーザーに信頼される質の高い介護サービスを提供することを目的とし、名古屋市で活動している様々な介護サービス事業者で構成された団体で、設立理念である「介護保険制度を

社会全体で支える組織」を実現すべく活動している。

平成13年、「介護サービス事業者自己評価・ユーザー評価」は、この名介研が主宰し、在宅介護サービスを対象としてスタートした。サービスを提供する事業所と、その事業者からサービスを受けるユーザー双方が、同じ評価項目について評価を行う。参加事業所は、自己評価と、ユーザー評価の差を比較することができる。

3 調査項目と結果

評価項目は、21項目あり、参加事業所とユーザーは、それぞれが同じ質問に、1～5の点数で答える。平成24年は、当ステーションのユーザー（50名前後）のうち、参加数は30名、票の回収数は23、回収率は76.7%であった。ユーザー評価結果は、契約に関する設問の結果が5点満点の4.2～4.4点、訪問に関する設問の結果は4.5～4.8点、サービス全般についての満足度は4.5点であった。

この調査の1項目を以下に抜粋する。

<設問21>

サービスの提供、または利用にあたり、もっとも重要視している事項について5つを選んでください。

ユーザーの回答（同点含め、上位6項目）

- ・ 看護師の対応に、安心感、信頼感が持てる
- ・ かかりつけ医、病院と十分な連携がとれている
- ・ 看護師がよく相談にのってくれる
- ・ 担当のケアマネージャーと十分な連絡・調整がとれている
- ・ 不満や苦情などにもしっかりと対応してくれる
- ・ 緊急時にも対応できる

当ステーションの回答 (上位 5 項目)

- ・ 契約やサービス内容について、わかりやすく説明してくれる
- ・ 担当のケアマネージャーと十分な連絡・調整がとれている
- ・ かかりつけ医、病院と十分な連携がとれている
- ・ 看護師がよく相談にのってくれる
- ・ 看護師の対応に安心感・信頼感が持てる

ユーザーの自由記載内容 (抜粋)

- ・ 看護師さん達の知識技術も必要ですがやさしさ、感じのいい事も大切だと思う。看護師さんたちは皆全員やさしく感じのよい方ばかりで感謝。
- ・ 床上安静のため、さまざまな身体障害、例えば口腔、目薬、褥創、関節の痛み等など治療剤を購入、いつときの症状でも高額 (と思われる) な物を指示される (苦情)。
- ・ 娘と同居でも勤務時は連絡がとれず、夜遅いので、一人暮らしと同様。訪看を頼りにしている。電話で応答はして下さるが、仕事にはすぐには来て頂く事は出来ないの、専任の方が見ると、とても安心。(要望)
- ・ 胃瘻になってから訪看が入り親切な指導を頂いている。感謝している。
- ・ 担当のように、決まった人に来て欲しい。所長さんが月に 1 回は来て話を聞いて欲しい

この結果について、私達が感じた事は以下のようなものである。

- ・ 前年の、ユーザー意見が念頭にあって、意識してケアに入っているが、ユーザーの求める要望と、私達の認識にはまだ差がある

(回答下線部分)。差を比較する事が大切。

- ・ 連携時の対応が上位にあるのは、在宅の特徴と言える。ユーザーに代わり、主治医への代弁を行ったり、ケアマネージャーをはじめとして、各サービス間での連携を取ることも多い。また、緊急時の対応については、24 時間を通して、電話や臨時訪問の対応を行うことで安心感につながっていると思われる。
- ・ ユーザーや家族の思いをくむ、という事については、在宅はマンツーマンでじっくり取り組める。病院は公共の場であり治療が主となる。治癒して早く家に帰りたいのではないだろうか。自宅はプライベートな場であり、在宅看護はユーザーの安定した療養と安心が主となる。心の置きどころが根本的に違い、望まれるものも違う。限られた時間を向き合っ過ぎてため、ユーザーは、気持ちよく過ごしたいという思いがあるだろう。優しさや、感じのよさ、安心感、信頼感が求められており、関係作りが大切である。

「自分の事をわかっている人、慣れた人、決まった人に来てほしい」という要望があり、まず関係づくりを優先し、何でも話してもらえ信頼関係を作っていく事が大切である。逆に心が開けない時は、沈黙が起こり、話したいのか、話したくないのか、今はどちらなのかを見極める事が大切である。これは、私達が日々、意識して取り組んでいることである。

4 まとめ

このユーザーの評価を真摯に受け止め、私達の看護の質を高めていく為に、今後も継続していく価値があると考えます。また、高齢や障害の為、アンケート調査に不参加のユー

一ザにも、多くの要望があることを忘れてはならない。

訪問看護の特徴として「看護師一人で利用者宅へ訪問する」があげられる。訪問時の表情などにも注意を払い、耳を傾け、時には立ち止まり、一人ひとりのユーザーと向き合っていく姿勢が重要と感じている。個々のケースに寄り添い、関係が図れてこそ、良好な訪問が可能となり、また私達の成長にも繋がっていくと思われる。これらのことが最も重要なことだと、日々の訪問からユーザーに教えてもらっている。「来てもらってよかった」と言って頂けるように、これからも努力していきたい。

以上

<参考>

NAGOYA かいごネット

<http://www.Kaigo-wel.City.nagoya.jp/view/kaigo/top> 「事業者評価事業」

ただいま工事中！

増子記念病院は古くなった1号館を新館に建て直すための工事を行っています。

院長への直通便（臨時）を転載します

<ご投稿>

① ご要望 「玄関の雨除けの設置について」

いつもご苦勞様です。最近、新築工事がされ、屋根のある部分がすごく減りました。雨の日、車いすでの車への乗り降りが大変困ります。少し屋根のある場所をある一部の車が独占していたりします。簡易でもよろしいので、雨除けの庇をお願いしたいです。それと、間、口論になり、喧嘩になりそうになりました。よろしく早急に対応をお願いします。

屋根の下にずっと車を置く人に対して、注意を厳重にお願いします。※運転手が乗っていればいいというものでもありません。この間、口論になり、喧嘩になりそうになりました。よろしく早急に対応をお願いします。

<回答>

当院の改築工事では、皆様に大変ご迷惑をお掛け致しております。

玄関前の車寄せの現在の屋根ですが、今回の改築工事の対象のため、全て撤去となり、その代替え措置としまして、新築工事に支障のない場所の玄関入口前に雨除け屋根を設置する予定を致しております。時期は8月3日・4日を予定しています。また、病院前駐車場の1階の一部スペースで、雨の日には乗降のみができる様、調整を致しております。また、長時間駐車車両には、今後も貼紙等で駐車禁止を促して参ります。

色々のご不便をお掛け致しますが、改築工事完了まで引続きご協力を宜しくお願い致します。

※ 「院長への直通便」は外来と3階病棟に設置されています。毎月、内容が更新されていますので、機会があれば立ち止まって読んでください。

※ どなたでも自由に病院に対する意見や要望を投稿できるようになっています。院長は投書があれば、必ず目を通し、特別な内容を除き、ほぼ全例について回答しています。

※ 今回は、緊急性のあるご意見だったため「臨時」の回答をしています。それをこの紙面で紹介しました。